

SKYMENU 活用授業 実践レポート

お名前	かいばら よしあき 貝原 嘉昭	学校名	神戸市立長田小学校
実施学年	小学校5年生	教科	道徳
单元名	「復興への願い フェニックス」(学研)		

《学びを深めたいポイント》

以前は GIGA 端末を使わずに道徳学習を展開していたが、課題に対して自分の考えをもって話す児童が少なく、グループでの話し合い・学級全体での話し合いが一部の児童だけで進行していた。そこで、自分の考えを外化するために思考ツールを使うこと、またその過程で上手にまとめている子供をモデルとして共有・参照することを通して、考えを形成し相手に伝えるという一連の流れに慣れることが必要だと考えた。そこで、SKYMENU Cloud を活用して ①気づきを蓄積し ②考えをまとめ、伝えることに重点化して取り組んだ。

《SKYMENU 活用のポイント》

①「気づきメモ」：発達段階や学力状況に応じたグループワーク

グループワーク機能は、主に同じ(または類似した)学習課題をもつ児童が蓄積した情報を共有し、協働学習を支援できると考えられるが、学級全員が同じグループに参加し、チャットのように使う事も考えられる。本時では、アウトプットに苦手な意識をもっている児童が多い実態をふまえ、全員で気づきをテキストとして即時共有し、自分の考えの形成に生かした。

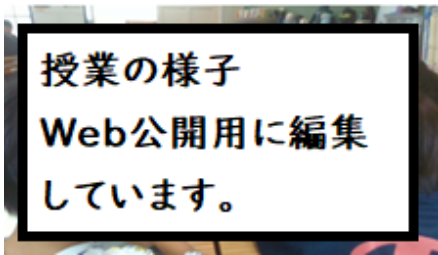
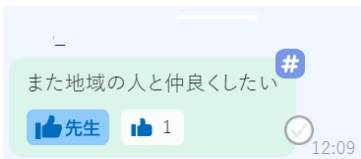
②「発表ノート」：思考ツールによる考えの外化

思考テンプレート(本時では「ベン図」を使用)を背景化した状態でノートを配布した。ノートに直接考えを整理するか、「気づきメモ」から自分のメモ・友達のメモを拾ってノートに転送することを想定した。

③「画面一覧」：学習状況の把握

児童一人ひとりの GIGA 端末の画面から、学習状況を把握し、適切な助言につなげることができる。例えば、「発表ノート」で思考ツールを使って考えを形成する場面で、長い時間を教材文の表示に充てている児童がいれば「課題の把握」につまずいているのではないかと予想でき、また「気づきメモ」のログを追っている児童は「情報の収集」につまずいているのではないかと予想でき、ピンポイントに支援することができる。

《実践内容》

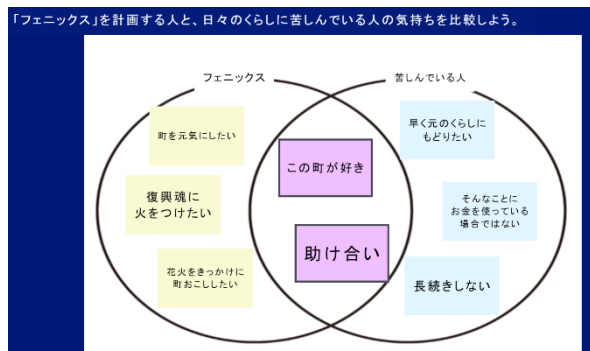
	学習活動	SKYMENU 活用場面	活用のポイント
導入	1. 教材を把握し、学習課題を把握する。 ※キーワードや絵図で簡単にまとめたものを MS Whiteboard で共有している。	(教師) 授業を開始する。 (教師) 別ウィンドウで開き「画面一覧」を表示する。 (児童)「気づきメモ」を開き、教師に指示されたグループに参加する。	★SKYMENU Cloud は複数のウィンドウ/タブで各アプリケーションを表示することが可能。 ★「気づきメモ」を全員チャット風に運用。
郷土のために活動する人々の気持ちについて考えよう。			
展開	2. 問いに対し、考えを出し合う。 ・地震で被害を受けた人々は、どんな思いだったのだろう。 ・「フェニックス」を提案した人々は、どんな思いだったのだろう。 ・「フェニックス」は、なぜ反対にあったのだろう。 ↓ 問い直し 「賛成派と反対派は、考えが全く違っていたのだろうか。」 3. グループ内で考えを発表し合い、全体に共有する。	(教師) 問いをメモする。 (児童) 自分の考えをメモする。書きにくい児童に対しては「いいね」することで共感の意思を伝えることも有効だと助言する。  (児童)「発表ノート」の思考テンプレートで自分の考えを整理する。 (教師)「画面一覧」を電子黒板に投影し、学習状況を確認しながら机間指導する。 (児童) 提出箱に提出しグループ内で他者参照。終わったグループから他グループの児童を参照。	★全員チャット風にすることで児童間の「いいね」が活性化。自分の考えに自信をもち、メモする児童が増加。 ★教師からの「いいね」は、児童間の「いいね」とは区別して表示。意欲付けに。  ★自分の言葉で表しにくい児童も、友達のメモを「発表ノート」に送ってじっくりと整理・分析が可能。 ★「発表ノート」は作ったらすぐに提出することを習慣に。
まとめ	4. 本時を振り返る。 ※MS Forms を使用。	(教師・児童) もう一度、気づきメモに返る。	★黒板を使わずとも、学級全体の思考の流れが可視化されている。

《実践を振り返って》

①「気づきメモ」の活用について

学級全員が同じグループに入るというイレギュラーな使い方だったが、全体への意思表示の場が増えたことにより挙手して伝えることが苦手な児童も積極的にメモ（ここでは、メモというよりは皆に伝えたいこと）を入力していたことから、本学級の実態においては一定の効果があったと考えられる。しかし、将来的には本来の情報活用のステップに引き上げるため、他の教科担任と連携し、自分でメモを蓄積するという実践を積み重ねる必要がある。

②「発表ノート」の活用について



本学級では思考ツールを活用した初めての学習体験となったが、ベン図は「比較・分類する」活動の中では最も扱いやすいツールで、児童は直感的にメモを配置していた。事前に、「気づきメモ」から「発表ノート」への転送方法を確認したが、実際には転送せず、「気づきメモ」と「発表ノート」をタブ移動しながらまとめたり、ウィンドウを2画面にしてまとめたりする児童の姿も見られ、授業者自身も驚かされた。このことから、児童の思考・表現の多様性を再認識することができた。（図は、思考テンプレート「ベン図」を使った整理の例。）

③「画面一覧」の活用について

計画当初は教師が児童の活動の大体を把握することにのみ働くものだと考えていたが、電子黒板に投影することで、児童同士が学習状況を確認め、困っている友達に近寄ってメモの転送方法を教えるといった姿が見られた。ただし、電子黒板の性質上、その過程を他者参照できる程の画面サイズにはならないので、今後は「ライブ公開提出箱」機能への期待と需要が高まるとされる。